

刊行にあたって

土木学会は 2024(令和 6)年 11 月をもって創立 110 周年を迎えた。学会活動が日本工学会にあった時期も含めると 135 年の歴史をもつ。土木学会はその記録として創立 20 周年、25 周年、40 周年、50 周年、60 周年、70 周年、80 周年、90 周年と 8 回の略史と、100 周年史を編集してきた。前回編さんの『土木学会の 100 年』は土木学会が創立された 1914 (大正 3) 年から 2014 (平成 26) 年までの 100 年間を対象とされた。今回の『土木学会略史 2014-2024』(『110 年略史』と呼称) はそれに続くものとして計画され、企画編集は第 112 代・佐々木葉会長のもとで組織された土木学会 110 周年記念委員会略史編集委員会によって行われた。編集委員会の構成員は土木学会に関与する各業界から委員と幹事が招集された。

『110 年略史』の内容は 2014 年から 2024 年(2023 年度末)までの 10 年間を対象とした。全体構成は『土木学会略史 1994-2004』(『90 年略史』と呼称)と『土木学会の 100 年』を踏襲し、「総論」、「学会活動の記録」、「資料編」の 3 編からなる。この 10 年間には自然災害は言うまでもなく、新型コロナウイルスによるパンデミックといった稀有な大災害も発生し、学会活動の継続においても試練となった。こうした異常事態を経ての今回の略史の特徴として、「第 I 編 総論」において執筆テーマ「100 年後を見据えて、いま土木学会に求められていること」を設定し、このテーマを念頭においての寄稿で構成することとした。歴代土木学会会長からは寄稿をいただいたほか、資料編に全国大会基調講演録を掲載させていただいた。続いて土木学会誌 2022 年 12 月号に掲載された『土木の 이슈 31』から選定し各執筆者に思いの限りを記し残していただいた。さらには各業界活動の 10 年間の総括、そして鼎談により特に学術面からみた学会活動のこの 10 年を振り返った。

創立からの歴史について、100 年間の足跡はこれまでの略史の記述に委ねるとし、『110 年略史』はこの 10 年間を記録することに加えて、土木学会の今後 100 年の道筋を考える手がかりとなることも意図して編集された。これは、『土木学会の 100 年』編さん時に、一括して記述し直すことは事実上不可能であるとして 10 年間を一区切りとし、それ以前とは独立した歴史記述スタイルとすることで、各時代の記録や資料とすることを踏襲したものである。本略史が土木学会の発展に寄与する記録となるよう願っている。

終わりに、『土木学会略史 2014-2024』において活動の記録を寄稿くださった皆様、企画編集に参画くださった委員会委員と幹事の皆様、企画運営から執筆依頼、編集において膨大な作業を進めてくださった土木学会事務局の皆様、ご尽力くださった各位に深く御礼申し上げます。

2024 年 11 月

土木学会 110 周年記念事業実行委員会
略史編集委員会
委員長 知野 泰明

110周年記念事業実行委員会略史編集委員会構成

委員長	知野泰明
幹事長	阿部貴弘
委員	小野田 滋 北河大次郎 齊藤 誠 島谷幸宏 田中尚人 谷 和仁 中村哲己 林 正道 三輪準二
特別委員	小林里瑳 山田菊子
幹事	木村優介 鈴木祐麻 惣慶裕幸 仲敷憲和 中山かおり 二瓶泰雄 古川慎治 安岡洋史
オブザーバー	塚田幸広 本丸哲也
事務局	工藤修裕 山村照人